

## **【成果情報名】 飼料用トウモロコシの県奨励品種「パイオニア P2088」の特性**

**【要約】** 飼料用トウモロコシ「パイオニア P2088」は中生品種で、収量性に優れ、雌穂の割合が高い。

**【担当】** 山梨県畜産酪農技術センター・草地環境科・藤村洋子

**【分類】** 技術・普及

---

### **【課題の要請元】**

畜産課

### **【背景・ねらい】**

トウモロコシは本県夏作飼料作物の基幹草種であり、中生の県奨励品種として「ゴールドデント KD731」が指定されているが、指定から6年が経過し、新品種の発売によって市販品種の入れ替えが進んでいる。そこで、近年新たに販売された品種を中心に栽培試験を行い、収量性や耐病性に優れた品種を選定する。

### **【成果の内容・特徴】**

1. RM（相対熟度）は118の中生品種で、中間地（畜産酪農技術センター長坂支所、標高700m）における絹糸抽出までの日数は約62日であり、稈長が他の品種に比べ長い（表1）。
2. 全体乾物収量および雌穂乾物収量が他の品種に比べ多く、乾雌穂割合が高いことからTDN収量も高い（表2）。
3. すず紋病にやや弱いですが、その他の病虫害については他の品種と差がみられない（表3）。

### **【成果の活用上の留意点】**

1. 栽培適地は、県内全域である。
2. 播種密度は10a当たり6,800本（畦幅70cm、株間21cm）～7,200本（畦幅70cm、株間20cm）程度とする。

### **【期待される効果】**

「パイオニア P2088」を利用することにより、単収の増加や安定生産が可能となり、自給飼料生産量の増加による購入飼料の削減が図られる。

[具体的データ]

表1 生育特性（3年間平均 2020～2022年）

品種・ 系統名	RM	絹糸抽出期	稈長	着雌穂高	稈径	倒伏	折損
		到達日数					
		播種後日数					
		cm	cm	mm	%	%	
◎ P2088	118	62	325.7	142.2	18.1	0.0	0.0
○ KD731	123	67	305.7	153.5	20.0	0.0	0.4
KD671	117	62	309.0	151.3	18.1	0.4	0.4
SH5702	118	61	308.7	137.7	17.5	0.0	0.0
NS118S	118	63	303.3	147.8	17.8	0.0	0.0
TX1162	120	67	306.0	151.5	21.2	0.0	0.4
DF004	120	63	307.2	145.2	18.4	0.0	0.0
P2105	123	62	299.8	134.0	18.3	0.0	0.0

◎奨励品種候補、○現奨励品種

表2 収量性（3年間平均 2020～2022年）

品種・ 系統名	乾物収量			TDN 収量	乾雌穂 割合
	茎葉	雌穂	全体		
	kg/a	kg/a	kg/a		
◎ P2088	117.9	155.8	273.6	201.0	57.1
○ KD731	115.0	112.7	227.6	162.7	49.2
KD671	107.1	130.4	237.4	173.1	55.0
SH5702	95.7	130.7	226.3	166.8	57.9
NS118S	103.0	124.3	227.3	165.6	54.8
TX1162	114.5	124.3	238.7	172.2	52.0
DF004	102.0	128.2	230.1	168.3	55.8
P2105	96.5	135.1	231.5	170.9	58.4

◎奨励品種候補、○現奨励品種

表3 病虫害程度（3年間平均 2020～2022年）

品種・ 系統名	ごま	すす紋病	さび病	紋枯病	黒穂病	下葉の	虫害 (アノメイガ)
	葉枯病					枯上がり	
	1-9(基)					0-5(基)	
◎ P2088	1.8	3.5	1.2	0.0	0.0	2.2	1.9
○ KD731	1.7	1.5	1.3	2.2	0.0	2.5	0.4
KD671	1.7	2.0	1.2	0.0	0.0	2.3	3.7
SH5702	1.8	4.8	1.0	5.6	0.0	2.7	1.9
NS118S	1.8	1.3	1.2	3.3	0.0	2.5	3.0
TX1162	1.7	1.3	1.0	2.3	0.0	2.3	2.2
DF004	1.5	1.7	1.3	3.3	0.0	2.7	1.5
P2105	1.5	4.0	1.3	0.0	0.0	2.8	5.0

◎奨励品種候補、○現奨励品種

[その他]

研究課題名：飼料作物優良品種選定普及促進事業

予算区分：県単

研究期間：1982年度～

研究担当者：藤村洋子、山川和寛、保倉勝己